

TIRI NEWS

Eye
Vol.52

中外鉱業株式会社

100%国内原料から貴金属を回収 老舗企業が探る新たなシナジー

「都市鉱山」からの貴金属リサイクルを手がける中外鉱業株式会社は、1932年創業の老舗貴金属メーカー。アニメのオリジナルグッズを扱うコンテンツ事業も併せ持ち、金を持つ新たな可能性を探りながらチャレンジを続けています。



東京工場での溶媒抽出の様子。通常、金の精製には電解法が用いられるが、溶媒抽出法を採用することで全体の工程を3、4日間短縮することができた。

リサイクルブーム以前から 「都市鉱山」に眠る貴金属を回収

中外鉱業(株)の貴金属リサイクル事業は、宝飾品や工業品スクラップなど、100%国内原料を元にした貴金属・有価金属の回収を行っています。生産の主力は「金」です。溶媒抽出法を精製に採用することにより、原料の溶解から金地金作製までを短期間で行うほか、排水に含まれる貴金属も効率良く回収するしくみを整えています。

「宝飾品においては、まずは宝飾品としてのリユースおよびリデュースを検討します。貴金属部分が再利用できるものや、台座のデザインを変更して販売できるものなどもあるため、溶解によるリサイクルはあくまで最終手段です」(佐々木氏)

創業は1932年。当初は鉱石からの精錬を行っていましたが、金の自由化による価格の急落や鉱山開発のコスト見直しを進める中で、昭和末期には事業の継続が困難となっていました。そのような状況下

で着手したのが、廃棄された銀塩フィルムからの銀回収でした。

「2000年頃の最盛期には1日に40トンのフィルムを焼成し、月に20トンの銀を回収していました。まだ世間にリサイクルという概念が生まれる前から始まった事業です」(佐々木氏)

やがて写真のデジタル化が進み、リサイクル事業の主力は銀塩フィルムから宝飾品に移ります。宝飾品の在庫を抱える業者に限らず、一般市場からの買い取りも進めました。2005年には東京23区内に精製工場を移し、「都市鉱山」からの3Rに注力しています。

金の流通を活性化し 新たな価値を生み出したい

中外鉱業(株)にはもう一つの顔があります。アニメやマンガのオリジナルグッズを扱う「コンテンツ事業」です。2013年にアニメ好きの社員がグッズを企画・販売したことをきっかけに、経験者採用などを経て事業

化。展示即売会やネット販売を通じて業績を伸ばしています。グッズの中には純金のフィギュアなどもあり、貴金属リサイクル事業で精製した貴金属を活用しています。

「現状、純金グッズは儲けよりもPRの意味合いが強く、貴金属とコンテンツの本格的なシナジーはまだこれから。劇中で使われているコインなど、純金製だからこそ価値がある商品を探っていければと考えています」(佐々木氏)

近年、密輸の急増を背景に、金の取り引きを取り巻く状況は厳しさを増しています。佐々木氏は「流通を活性化し、金の悪いイメージを払拭したい」といいます。

「個人が金を売買しやすい環境を整えるなど、国内の貴金属リサイクルにはまだチャレンジの余地があります。時代の流れを読みながら、業界にとらわれない新たな事業にも挑戦し続けたいと思います」(佐々木氏)



ゲーム「ロックマン」30周年を記念して作られた純金製のフィギュア。他にもメダルなどの限定商品もある。



銀塩フィルムを焼成する持越工場。近隣にはかつて金鉱山として採掘が行っていた持越鉱山があった。



前年度は、香港で開催された大型宝飾展示会に4回すべて出展した。売上は右肩上がり好調。



中外鉱業株式会社 貴金属部
取締役部長 佐々木 太志 氏

リサイクルブーム以前から都市鉱山からの貴金属回収に着手。リユースやリサイクルされた宝飾品は、中国などの海外市場へも展開している。